



『海禅寺新聞』第40号

令和5年もあとわずかととなりました。今年5月に新型コロナウイルス感染症が「5類感染症」となり、コロナ禍以前の生活が徐々に取り戻された1年となりました。檀信徒の皆様におかれましても、これまで控えていた外出の機会が増えたり、旅行に出かけたりと、様々なよい変化があったのではないのでしょうか。

さて、新年令和6年の十干十二支は「甲（きのえ）辰（たつ）」です。十干十二支の41番目の年にあたり、十干の1番目である「甲」と十二支の5番目である「辰」が重なる年となります。「甲」は甲冑の「甲」の文字から鎧や兜を連想させ、種子が厚い皮に守られて芽を出さない状態や、物事に対して耐え忍ぶ状態を表す文字です。また、生命や物事の始まり、成長も意味します。「辰」は「振るう」という文字に由来しており、自然万物が振動し、草木が生長して活力が旺盛になる状態を表します。辰は竜（龍）のことで、十二支の中で唯一空想上の生き物で、東洋では権力・隆盛の象徴として親しまれてきました。

甲と辰が合わさる令和6年は、辰年のキーワードである「変革（転機）」や「激動」が示すように、時代がよい方向に動く年となるかもしれません。私たち個人も、これまでの努力が実って夢が叶いや

すい年になるとも考えられます。中には努力が成果につながらないこともあるかもしれません。しかし、焦らず諦めずに努力を続けられれば、水面下で着実に物事は育ち、次につながり広がる年になることでしょう。

菩提寺としましても、皆様の日々がよい毎日ありますよう、そして来る年が充実した1年であるよう、至心にご祈願申し上げます。



『初祈願お申込み』を送付

新年恒例となっております『初祈願大護摩祈禱札のお申込み』を同封いたしました。

海禅寺の不動堂にて、ご本尊不動明王の御前で勤める護摩祈禱にてお加持をした護摩札をお授けいたします。

○日程 新年1月2日（火）祝日
○時間 祈禱 午前10時〜

※お堂にお入りの方は10時40分頃、御札をお渡しできます

・御札渡し 午前11時〜午後5時
・御札郵送 3日発送



●初祈願ご祈禱札をご希望の方は、12月29日（金）までに、同封の『初祈願御申込御芳名帳』にてお申込みください。ファックスでも可 Fax: 0268-26-1147

●新設のフォームよりお申込みも可能です。下記QRコードをスマートフォンで読み込んでご入力ください



・当日お堂にお入りにならないお申し込みの方にはご祈禱後、午前11時よりご祈禱札をお渡しできます（当日は夕刻5時まで）。お申込みの方は都合のよい時間に合わせてお寺にご参拝いただいても結構です。

・祈禱札の郵送もいたします。（送料500円。ご希望の方は申込書に明記ください。護摩祈禱会終了後、ご希望の方はご歓談いただけるようにお茶の準備をいたします。お時間許す方は茶話会にご参加ください。（御神酒は用意しない予定ですが、お集まりの方の中でご希望があれば、不動尊にお供えした御神酒をお下げして一献やりましょう）

修正会

新年最初の法要である修正会。過ぎ去った旧年の罪障や穢れを懺悔し、新しい年がよりよくあるように祈念いたします。海禅寺でも年が明けた0時より、本堂・不動堂・聖天堂でお勤めをいたします。

ご参拝希望の方はお堂の外からですが、どうぞご自由にお参りください。（申込不要）
日時：新年1月1日 午前0時〜
※本堂・住職が各家ご先祖の回向法要を勤修
不動堂・聖天堂・副住職が祈願法要を勤修

『生きる力 Vol. 115』送付

今回の特集は『「生きる力」とお大師さま ― お大師さまと歩むことから始まる、仏さまとの出会い ―』です。6ページ目からの今回の特集では、彼岸会法要で皆様と毎回お勤めをするお経本「智山勤行式」について解説があります。誰でもが唱えやすい短いお経ですが、そこに込められた深い仏教の叡智の一端をご理解いただけることと思います。

また私（副住職）が毎回楽しみにしているのがマンガ「智積院の修行生活」です。私たち真言宗智山派の修行道場をこまめに克明に、かつコミカルに紹介するのは、これが始めての試みだろうと思います。ぜひご一読ください。それについても、この小冊子『生きる力』に執筆している先生方のお名前を見ると、共に学ばせていただいた少し年上の先輩僧侶や、はたまた後輩が担当しているものが大変に多くなつて参りました。もし諸先生方の日程が合いましたら、夏の施餓鬼法要の折、法話をお願いしたいと思います。

報告 人形供養会 無事勤修

今年も恒例の人形供養会を去る11月23日（勤労感謝の日）に勤修することができました。回を重ねること39回目。今年も県内外から多くの供養人形が集まりました。当日は海禅寺とご縁のある県外の僧侶方に多数ご出仕いただき、お人形達に感謝を伝える供養をお勤め致しました。来年は人形供養会を始めて40年目となります。節目の年に相応しい記念法要と門前市などを開きたいと企画を練っています。詳細が決まりましたら、追って海

禅寺新聞で告知します。供養人形がなくともご参拝いただけますので、今からぜひご予約ください。



柴燈護摩供養の点火は修験者と共にガールスカウト・芙蓉園園児さんが担当

★来年の人形供養会について

日時…令和6年11月23日(勤労感謝の日)
事前申込…2月3日(節分)以降随時

※12月・1月は年末年始の繁忙期につき、春の節分以降のに事前のお預かりを始めます

報告 三縁講発足

海禅寺から徒歩5分、柳町にある『保命水』(ほめいすい)をご存じでしょうか？これは海禅寺境内に湧く水を、明治14年に柳町の方達が木管で繋ぎ、簡易水道として日常生活に使われてきました(海禅寺の湧き水は、太郎山の伏流水であると言われてます)。海禅寺では当時柳町との間で取り交わされた契約書が現存し、歴史的資料として大切に保管しています。しかし

大正12年の上水道設置によって、保命水は生活用水としての役目を終え、同時にその使用契約も自然消滅していました。

ところで今年には上田市の上水道設置からちょうど100周年の節目となります。これを期に、現在上田市で唯一現存している簡易水道「保命水」の歴史的資源としての価値を再認識し、この水を大切にしてきた先人達の想いとその功績を讃え、今後さらに100年先の未来まで継承していくために、「保命水の未来を考える会」として『三縁講』が発足しました。この講の名称は、保命水の創設当初、柳町が海禅寺に対して、年間三円の使用料を支払っていたという契約内容を受け、「三円」という歴史的事実を名前に反映し、「保命水・城下町・海禅寺」そして「過去・現在・未来」といった様々な「3つの縁を繋ぐ」意味を含ませて命名しました。今後、柳町ではこれまで以上に保命水を活かした街づくりを進め、その活気が市内外に広く広がるような取り組みをしていくそうです。

海禅寺はこの講の世話役として、また歴史的資源継承のために見守り役として参加していきます。今後の活動について、主なものは海禅寺新聞でもお知らせしてまいります。

今も豊かな水量を誇る保命水



→三縁講発足、そして柳町との関係再開の印として灯明料が納められました

【三縁講メンバー】

- 講師 岡崎謙一氏(岡崎酒造代表)
- 講師補佐 飯島俊哲(海禅寺副住職)
- 事務局 池松勇樹氏(柳町屋代表)
- 発起人 大西利光氏(手打百藝お西代表)

海禅寺世話人

報告 住職冬報恩講に出仕



修法してまいりました。当日は海禅寺も所属する真言宗智山派長野北部教区の役員をされている僧侶方も揃って駆けつけ法要に随喜していただきました。

皆様のお陰をもちまして無事その任を果たすことができました。様々に祈りを懲らす中で、海禅寺檀信徒の皆様のご多幸と安寧を祈念して参りました。ここにご報告いたします。



冬報恩講とは、宗祖・弘法大師空海の教えを復興された興教大師覚鑿(かくぼん)の功績に感謝し、その教えを継承することとで、その恩に報いることを目的に行われる法要です。毎年総本山智積院で、12月に勤修されており、真言宗の教義について論議する法要「出仕論議」、興教大師覚鑿が祀られている密厳堂で尊勝陀羅尼というお経をお唱えする「陀羅尼会」、そしてこれらをしめくくる法要「御法事」の3つで構成されています。

その中で今年には「陀羅尼会」が「不断陀羅尼会」(ふだんだらにえ)として勤められる年でした。これは夕刻四時から翌朝まで、尊勝陀羅尼を途絶えることなく一晩中読誦する法要です。今回海禅寺住職が、管長猥下以下31名の高僧方が法要の導師を勤める中、その1人として登壇し

編集後記 この海禅寺新聞、本号で第40号目となりました。毎年、春・夏・秋・冬の年4回発行していますので、今回でちょうど新聞を始めてから10年目が経過したことになります。海禅寺の「今」を檀信徒の皆さんと共有したいと始めたこの発信。皆様どう受け取ってくださっておりますでしょうか？

海禅寺をお預かりしている住職・副住職は、日常的に隣接する認定こども園芙蓉園で、乳幼児さんの教育保育に携わっていることからなかなか寺のことだけに注力できない事もあるかもしれません。しかし園が隣にあることの相乗効果があるのも事実です。引き続き皆さんの菩提寺海禅寺がよりよい場であるよう努力して参ります。

発行元 海禅寺